

キッズデザイン事業 こども OS ワークショップ募集要項

・・・こどもから学ぶ・おとなが変わる・・・

(財) 大阪デザインセンター

現代社会は普遍性と個性の2つの大きな価値軸の中で揺れ動いています。

デザインは完成された姿・形を表すだけと捉えられがちでしたが、クライアントからの要請、用途、社会的ニーズ、制約条件等を総合的に解決することができる「ソリューションツール」として見直されています。そして、その対象は、モノ、コト、社会的課題などソフト分野に広がっています。

我々が抱える普遍性な問題の中には、ユニバーサルデザイン、エコデザイン、サステナブルデザインなど多くの課題がありますが、今回はキッズデザインを取り上げます。

キッズデザインの分野で、デザインの発想手法を使ってものづくりに新たな発想方法を体得していただきたいと存じます。

こどもから大人が学ぶ、気づくことが大きなテーマです。

Kids design the World !

こどもは世界をデザインする。こどもから学ぶ・おとなが変わる。

こども視点・こどもゴコロでものごとを見つめ直してみると、たくさんの気づきが生まれます。

ものごとを創出する際に必要な思考プロセスやアイデアをこどもから学び、消費者行動を把握し潜在ニーズを探り出す。

おとなたちが会議室で難しい顔をして企画した商品を、果たしてこどもたちは満足するでしょうか。頭で考えるおとなたちと、実際にその製品で行動するこどもとの間には大きな溝が生まれがちです。

そこで重要になるのが、こどもの視点であり発想、思考プロセスです。

社会的経験の少なさから、こどもの思考や行動は生き物としての人間の根源的な動きを示すことが多く、アイデアも豊富で、こどもから学べる点は少なくありません。

こどもならではの感性をデザインに活かすことができれば、よりこどものニーズに合ったものづくりが可能となります。

こども OS ワークショップについて

次世代を担うこどもたちが、安全・安心に、そして、創造性・感性豊かに暮らせる環境を、デザインを通じて創出することは、これからのものづくり企業の大きな課題です。

こどもにやさしい製品を作る上で、こどもを知る事、こども目線に立ったデザイン発想は不可欠です。

そこで、こども OS 研究会のフェロー 同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 上田信行教授をお招きし、大人になると忘れてしまいがちな人間の基本行動パターンや、こどもたち特有の自由に豊かな感受性や想像力、直視力から引き出される思考や行動、感性、デザイン創造について、こども OS (*1) に学び、その意義について考察します。

当ワークショップでは、こども OS 研究会 (*2) の研究成果、「プレイフル・デザイン・カード」を使ったデザイン発想法を体感していただきます。こどもたちを取りまく環境が、機能や価格だけでなく、心の充足や感動、共感など新たな価値軸を持った社会となるよう、また、こどもの感性に・デザイン創造についての認識を深める機会として当ワークショップをご活用ください。



【講師紹介】上田信行 (うへだ・のぶゆき)

同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授、ネオミュージアム館長
1950年、奈良県生まれ。同志社大学卒業後、セントラルミシガン大学大学院にて M.A. 取得。ハーバード大学教育大学院にて Ed.M., Ed.D. 取得。専門は教育工学。プレイフル・ラーニングをキーワードに、学習環境デザインとメディア教育の先進的かつ独創的な学びの場づくりを数多く実施。1996 - 1997 ハーバード大学教育大学院客員研究員、2010 - 2011 MIT メディアラボ客員教授。著書に『プレイフル・シンキング：仕事を楽しくする思考法』（宣伝会議）、『プレイフル・ラーニング：ワークショップの源流と学びの未来』（三省堂、共著）、『協同と表現のワークショップ：学びのための環境のデザイン』（東信堂、共編著）など。

<http://www.neomuseum.org>



*1 こども OS とは、およそ 2 歳から小学校を卒業する頃までのこどもたちが持つ、自由に豊かな感受性や想像力・直視力から引き出される、こどもたちに特有の思考や行動。特定非営利活動法人キッズデザイン協議会により命名

*2 こども OS 研究会：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会に設置されたこども目線、こどもゴコロから新たなデザイン指標を作ることを目指して活動している調査・研究機関

キッズデザインとものづくりとの関係

こども視点・こどもゴコロでものごとを見つめ直してみると、たくさんの気づきが生まれます。

その際の「こども視点」として、こどもOSの成果であるこどもの思考・行動パターン類型の中からいくつか抽出して道具概念として用います。モノやものごとを通常のおとなとは違う角度から見つめ直してみると、斬新な切り口から新たな気づき、発想が生まれます。

たくさんの気づきは、たくさんの工夫の原動力となり、こどもたちが安心して暮らせる環境をつくることができます。その環境はこどもたちだけでなく、全ての人たちが快適に暮らせる環境にも通じます。

こどもを対象とする商品のみならず幅広いものづくり企業のみなさまが対象です。

ワークショップを通じ、こどもたちの特徴的な振る舞いと行為に可能性を見出し、ものづくりの過程に必要な問題や発想の糸口を学び、市場への展開を探ります。

各企業の企画・開発担当の方々のご参加をお待ちしております。

ものづくりの現場で、このようなお悩みをお持ちの方へ

- ・ 製品開発のためこどもの行動特性を知りたい
- ・ キッズ向けの製品を開発したいが、アイデアが思い浮かばない
- ・ 安全に配慮した製品開発をする際、こどもの行動について認識を深めたい
- ・ 企画開発会議が退屈、もっと自由なアイデア出しができないか
- ・ こどもだけでなく、子育ての環境についての提案がしたい
- ・ 新しいことに挑戦するこどもを応援したい
- ・ 安心してこどもを産み、育てる社会のために企業ができることってなに？



教育、環境、空間デザイン、食料品、文房具、玩具、衣料、日用品、医療、マタニティ、パッケージ、プロダクト、家具、スポーツ用品、サービス、その他

名称：こどもOSワークショップ

主催：財団法人大阪デザインセンター

共催：大阪市

後援：近畿経済産業局、大阪商工会議所

特別協力：大阪府産業デザインセンター

日時：10月28日（月） 11：00 - 17：00 終了後交流会を行います。

場所：住之江区南港北 2-1-10ATCビル ITM 棟 9F セミナールーム 1

定員：30人

参加費：10,000円/人（お支払いは当日受付にて）

講師：上田信行氏 同志社女子大教授、川本誓文氏 大阪府産業デザインセンター研究員

